

「やさしい日本語」に見る言い換え操作 —語句交替の形式に着目して—

湯浅千映子

1. はじめに

本論文は、地震や水害など緊急時において日本在住の外国人救援のために編み出された「やさしい日本語」を用いて、在住外国人向けの「言い換え」という側面からその形式的特徴を明らかにするものである。

1995年に発生した阪神大震災を教訓に、災害時、在住外国人に向けて災害情報を伝達する「やさしい日本語」が開発された。弘前大学人文学部社会言語学研究室作成のパンフレットによれば、災害が起きた後、被災者となった在住外国人に簡潔な情報を迅速かつ正確に伝え、その被災者の不安な気持ちを鎮めようとする「減災」という立場から考案されたという。

この「やさしい日本語」が対象とする在住外国人には、日本の大学で学ぶ学部留学生や協定留学生も含まれる。地域で暮らし、自治体の住民サービスを受ける彼ら留学生にとっても、「やさしい日本語」は、生活に密着した有用ものとして位置づけられよう。

2. やさしい日本語の理念

佐藤（2009：181）は、「やさしい日本語」を次のように定義する。

『「やさしい日本語」は、災害が起きたときに「やさしい日本語」を使った音声で、日本語に不慣れな外国人を安全な場所へ誘導し、それぞれの母語による生活支援が始まるまでの、避難生活で必要になる情報を『やさしい日本語』で

書いた掲示物で伝えようと考え出された、災害時の外国人被災者のための日本語のことである。また外国人に情報を伝える立場にある行政や支援者にとっても、翻訳に迫られる作業や確認のための手間が省略できるため、非常時にあっても情報を的確に伝えられるという利点がある」

このように、「やさしい日本語」は、情報を受け取る側だけではなく、情報を発信する側にも利点があることが特徴的である。

この弘前大学の試みは全国の地方自治体にも広がりを見せている。災害情報だけでなく、日々の暮らしの公共サービスの情報を在住外国人に向けて伝えるため、多言語による対応と併行し、「やさしい日本語」による情報提供が全国各地でなされている。

例えば、神奈川県国際課は、県のホームページ上に、災害に関する情報として、10か国語の翻訳版ページとともに、「やさしい日本語」のページ「神奈川県 災害時外国人住民支援のページ」を開設している。その中の「緊急情報（きんきゅうじょうほう）」の欄には、現在の災害発生状況が常時提示される。平常時には、「ただいま神奈川県内に災害緊急情報はありません」（一般向け日本語）
「今（いま）は緊急（きんきゅう）の情報（じょうほう）はありません。安全（あんぜん）です」（やさしい日本語）
となっていた。

また、このホームページには、外国籍県民の相談窓口の一覧、一般通訳の募集や医療通訳サービスの派遣のお知らせや住まいに関する支

援など、生活に関する情報も同様に「やさしい日本語」を用いて示されている。

3. 「やさしい日本語」の実際

神奈川県の外郭団体、あーすぶらぎ（神奈川県立地球市民プラザ）のホームページ上でも「やさしい日本語」が活用されていた。

2011年10月7日に出されたトピックス（お知らせ）を例に見てみよう。

【一般向け】

蔵書点検に伴う休室と貸出休止のお知らせ
(10/18～21)

映像ライブラリー（2階）

蔵書点検のため、次の期間を休室とさせていただきます。

映像ライブラリー休室：平成23年10月18日(火)～21日(金)

※休室中の図書の返却は、返却ポストか情報フォーラムへお願いいたします。

情報フォーラム（2階）

情報フォーラムは通常通り開館しますが、資料の貸出サービスのみ休止いたします。

情報フォーラム貸出サービス休止：平成23年10月18日(火)～21日(金)

※資料の閲覧、フォーラムスペース等のご利用いただけます。

皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

または、ぼすと にほん を かえしてください。

おねがいします。

じょうほう ふおーらむ（2かい）

2011ねん 10がつ 18にち（かようび）から
10がつ 21にち（きんようび）まで ほん を
かりる こと は できません。

ほん を よむ こと は できます。

がいこくじん そうだん まどぐち は あいて
います。

おねがいします。

一般向けで「貸出休止」とあるものが、「休止」の部分で「かしだし を やすみます」と和語化させている。「休室」は、「やすむ」ではなく、「しまります」となり、「休室中の図書の返却は」が、「ほんをかえしたいとき」と「返却」が「かえす」となっている。また、「開館します」が「あいています」、「資料の閲覧」が「ほんをよむこと」となっている。

また、「貸出サービス休止」を「ほんをかりることができません」と、「貸出」に対して、「かす」ではなく、利用者側から見た「かりる」と表現するとともに、「休止」の部分に不可能の意味を読み込み、前後の語を融合させ、「かりることができない」としている。

こうした語句の交替だけではない。一般向けの「蔵書点検に伴う」・「蔵書点検のため」といった図書館が休む理由に関する言及が削除されている。

その一方で、一般向けの「返却ポストか情報フォーラムへお願いいたします」の部分は、「ぼすと にほん を かえしてください」、「じょうほう ふおーらむ へ きてください」の「かえす」や「くる」という行為に関する情報を付加している。

「やさしい日本語」に2回登場する「おねがいします」に注目すると、最初のものは、「かえす」、「くる」と、するべき行為を示したのち、文を改め、「おねがいします」と述べている。2度目の「おねがいします」は、何を願います

【やさしい日本語】

ほん の かしだし を やすみます
(10/18～21)

えいぞう らいぶらりー（2かい）

2011ねん 10がつ 18にち（かようび）から
10がつ 21にち（きんようび）まで えいぞう
らいぶらりー が しまります。

じょうほう ふおーらむ は あいています。

ほん を かえしたい ときは、じょうほう
ふおーらむ へ きて ください。

るのかについての言及が省かれている。一般向けでは、「皆さまにはご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力を」とお願いの対象が明記されていた。

こうした情報の増減も含む言い換え現象が一般向けとやさしい日本語の間で見られるのである。本稿では、「返却」→「かえす」といった語句の交替を中心に分析を行う。

4. 「やさしい日本語」の基準

弘前大学人文学部社会言語学研究室が2013年に刊行した『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』の『『やさしい日本語』の説明とマニュアルの特徴』では、「やさしい日本語」のレベルについて、以下のような記載がある。

「やさしい日本語」とは、災害が起きたときに外国人に大切な情報が伝わらず、被災者が二重に被災してしまうことを防ぐために作られた表現方法です。日本語能力試験3、4級程度の外国人にも伝わるわかりやすい日本語です。小学校低学年の国語教科書と比較した結果、そのやさしさは小学校3年生の国語教科書に相当することが分かりました。」

ここに「日本語能力試験3、4級程度」と併せて、「小学校3年生の国語教科書に相当」とのレベルの目安が示されている。このことから、第二言語として日本語を学ぶ外国人の場合と、母語である日本語を獲得しつつある児童の場合を比べると、両者は、対象とする相手の年齢や属性は違うものの、対象とする相手に合わせ、ことばをやさしくするという点で共通するものと思われる。

また、別冊子『増補版「やさしい日本語」作成のためのガイドライン』では、その作成のルールを提示している。その筆頭に、(1)「難しいことばを避け、簡単な語彙を使ってください」とある。そしてその簡単な語彙の基準を日本語

能力試験の3、4級レベルと規定する。

しかし、何をもって難しいことば、あるいは、簡単な語彙と言えるのだろうか。その難易の差を既存の日本語能力試験のレベルや国語教科書の学年配当に拠って導くことができるのだろうか。検証とともに実際の言い換え例の分析に基づく帰納的なルール制定が求められよう。

前出の作成ルールは、他に、(2) 1文を短くして、文の構造を簡単にしてください(主語と述語を一組だけ含む文にしてください・連体修飾節(名詞を説明している部分)の構造を単純にしてください)、(3) 外来語を使用するときは気をつけてください、(5) 動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください、(6) あいまいな表現は、避けてください、(7) 二重否定の表現は避けてください、などがあった。

5. 分析資料・分析方法

本稿では、以下の4種の資料を分析に用いた。いずれもやさしい日本語に言い換える前の難しと日本語と併せてリストアップされている。

- ・弘前大学人文学部社会言語学研究室減災のための「やさしい日本語」研究会(2013)『増補版 災害が起こったときに外国人を助けるためのマニュアル』の「やさしい日本語文の作り方」の「言い換えリスト」(以下「弘1」)／『『やさしい日本語』版災害基礎語彙100』(以下「弘2」)
- ・とんだばやし国際交流協会企画編集・大阪府企画調整部国際課発行(2006)『「言葉の壁」を超えるコミュニケーション手法開発事業 どういたしたん?(大丈夫ですか?)ーやさしい日本語で外国人と話してみようー』内の「やさしい日本語への言い換えリスト」(以下「と」)
- ・愛知県地域振興部国際課多文化共生推進室(2013)『やさしい日本語の手引き』内の「用語集・文例集」(以下「愛」)

加えて、実際の文の中で「やさしい日本語」がどのように見られるか、(財)兵庫県国際交流協会・阪神地域多言語生活情報作成委員会事務局が作成した「在住外国人のための多言語生活ガイド」(以下「兵」)

この一般の日本語の文例と「やさしい日本語」の文例を考察の際の参照とした。

分析方法は、「やさしい日本語」に言い換える前の語と「やさしい日本語」に言い換えた後の語とを対応させ、両者で語句の表現が異なる箇所を抽出し、その異同を見た。本稿では、分析対象を「やさしい日本語」で用言によって言い換えがなされる例とする。但し、本稿では、「受付時間」を「あいている じかん」、「懐中電灯」を「でんちで つく でんき」といった名詞止めの言い換えで、連体修飾節の部分に動詞を用いる例は扱っていない。今後の課題としたい。

6. 「やさしい日本語」における語句の交替に伴う形式上の差異

一般向けの元の語と言い換えにより語句の交替が生じた「やさしい日本語」を対照させると、語同士で対応するものと、一方が語で他方が動詞を含む句となる例があり、レベルは異なるけれども意味の対応する2つのパターンが見られた。以下、同じ品詞間の「語と語の対応」、名詞から動詞といった異なる品詞間の「語と語の対応」、そして「語と句の対応」の3点に分け、順に挙げる。

6.1 語と語の対応

4種のデータから見られた、動詞から動詞へのやさしい日本語の言い換えを一覧にして、以下に示す。矢印の左が言い換える前の語句、矢印の右が言い換え後の語句である。

《動詞対動詞》

あわてて⇒いそいで 慌てない⇒落ち着く
炎上する⇒燃える 覆う⇒あてる 覆う⇒
つける 行う⇒する 収まる⇒終わる 襲う

⇒来る 落ち着いて⇒いそがないで おびえる⇒怖がる 口座を開設する⇒通帳をつくる
回収する⇒もらう 回収する⇒集める (両手で) 抱え込む⇒(強く) 抱く 身の安全を確保する⇒自分の体を守る 確認する⇒確かめる (電話を) かける⇒(電話を) する (電話を) かける⇒(電話を) つかう かける⇒座る 傾く⇒倒れるかもしれません 加入する⇒入る 陥没する⇒壊れる 記入する⇒書く 救援する⇒助ける 協力する⇒たすけあう (エンジン) を 切る⇒(エンジン) を 止める 崩れる⇒壊れる 崩れる⇒壊れて落ちる 欠席する⇒休む 検討する⇒考える 故障する⇒壊れる 指定された⇒決められた 支払う⇒払う 修理する⇒直す 宿泊する⇒泊まる 使用する⇒つかう 備える⇒用意する 垂れ下がる⇒切れる 中止する⇒やめる (レンジで) チンする⇒(レンジで) 温める 通報する⇒連絡する 通報する⇒電話する 伝える⇒知らせる 伝える⇒教える 勤める⇒はたらく 潰れる⇒壊れる 停車する⇒とめる 問い合わせする⇒きく 問い合わせする⇒質問する 倒壊する⇒壊れる 到着する⇒着く 届け出る⇒れんらくする 亡くなる⇒死ぬ 破壊する⇒壊れる 破損する⇒壊れる 外す⇒とる 引き返す⇒帰す 引き返す⇒戻る ひび割れる⇒割れる 避難する⇒にげる 触れる⇒触る 紛失する⇒なくす 返却する⇒(借りたものを) 返す (買ったものを) 返品する⇒返す 崩壊する⇒壊れる 保護する⇒守る (回覧板を) 回す⇒渡す 燃える⇒焼ける 目撃する⇒見る (ガスが) 漏れる⇒(ガスが) 出る 利用する⇒使う お待ちください⇒待ってください 切符を拝見します⇒見せてください 指定された⇒決まった 死亡する⇒死んでいる 渋滞する⇒混んでいる 助かる⇒生きている 更新する⇒新しくする

《形容詞対形容詞》

安全⇒だいじょうぶ	清潔な⇒きれいな	大規模な⇒大きい	危険⇒あぶない	新鮮⇒新しい	身軽な⇒動きやすい	体調が悪い⇒元気がない
-----------	----------	----------	---------	--------	-----------	-------------

動詞、形容詞とも、漢語から和語へ言い換えたものが最も多く、45例あった。和語同士の言い換え（「あわてて⇒いそいで」・「覆う⇒あてる」）、和語から漢語への言い換え（「備える⇒用意する」）も見られる。

ここで「兵」の「やさしい日本語」による言い換え例の例文から見てみたい。「地震のとき」、「事故、盗難にあったとき」の注意点である。

①日頃の対策

家の中で一番安全な場所を確認しておく。

⇒ うちの なかで いちばん あんぜんな ばしょを たしかめて おきます。

②落とし物・忘れ物をしたとき

近くの警察署か交番へ行って問い合わせてみましょう。

⇒おとしもの・わすれものを した とき
ちかくの けいさつしょか こうばんに いって きいて ください。

2字漢語のサ変動詞「確認する」に対し、その2字漢語の字音形態素を取り上げて「たしかめる」、「問い合わせる」の複合動詞に対し、「きく」という、いずれも語基が一つの和語の動詞に語の構造を単純化させている。

これを前述の日本語能力試験出題基準（難易度の高い順に1級から4級）、教育基本語彙の語彙配当（小学校低学年、高学年、中学校）と照合して難易度を測ると、次のような結果となった。

	日	教
確認する	2級	中学校
たしかめる	2級	低学年

	日	教
問い合わせる	1級	中学校
きく	4級	低学年

国語教育による基準では、「きく」「たしかめる」ともに、中学校レベルから小学校低学年レベルに難易度が下がっている一方、日本語教育の判断では、「たしかめる」は、言い換える前の「確認する」とレベルに変動がないことがわかる。実際、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」に収録される2005年～2007年の小学校から高校までの教科書に登場する語を見ると、「確認する」は、『新しい社会 地理』（東京書籍）など、中・高の教科書でのみ使用され、「たしかめる」は、『新編 新しい社会 3・4上』（東京書籍）など小学生向けにも用いられている。「問い合わせる」も同様に、中学校『国語 I』（光村図書）でしか見られず、一方の「きく」は、小学生から高校まで広く用いられる。

語同士で対応を見せる例には、他に次のような特徴を有する。

- i ヴォイスやアスペクトなどモダリティ要素の付加・削除させる
- ii 動詞←→別動詞で否定する
- iii 動詞←→動詞+機能動詞を対応させる

まず、i の例である。元の語と比較した際、言い換えた語と語尾に付属する表現が異なる以下のような例が見られた。

ヴォイスが異なる

指定された⇒決まった

アスペクトが異なる

死亡する⇒死んでいる・渋滞する⇒混んでい

る・助かる⇒生きている

「兵」では元の語にあったヴォイスを外す例が見られた。

③出生届が受理されたことを証明する書類です。
⇒しくちょうそん（市区町村）が しゅっしょうとどけ（出生届）を うけとった ことをしょうめいする しょういです。

言い換え後の「やさしい日本語」は、「しくちょうそん（市区町村）」という「うけとる」動作の主体が明確に記されている。

他に、「兵」では地震が起こった際の注意事項の記述で、「ておく」のアスペクトを付す例が見られた。

④部屋や玄関のドアを開け、逃げ道を確保する。
⇒へやや げんかんの どあを あけて、にげる ための みちを つくって おきます。

「つくっておく」と表現することで、すぐに外に出るのではなく、後に逃げ出すために事前にドアを開け、しばらく家で様子をうかがった上で慎重に逃げるようにとの時間的経過が明示されている。

次に、一方の否定表現を一方でその内容に対応する肯定表現によってひっくり返すことで言い換えるiiの例もある。これも「兵庫」の言い換え例の中にあった。

⑤急病や、大ケガのときは、消防署に電話して、救急車を呼びます。軽いケガや病気の時などで、自力で病院にいけるときは、タクシーや自家用車をご利用ください。

⇒きゅうな びょうきや、おおきい けがのときは、しょうぼうしょに でんわして、きゅうきゅうしゃを よびます。けがや びょうきが かるい ときなど じぶんで びょういんに いく ことが できる ときは、きゅう

きゅうしゃを よばないでください。

言い換える前は、「ご利用ください」の目的語がタクシーや自家用車であるのに対し、「やさしい日本語」の目的語は「きゅうきゅうしゃ」であり、目的語が異なる。これは、前文「きゅうきゅうしゃを よびます」を反復させ、「きゅうきゅうしゃ」を「呼ばないで」と前文を否定した形へと収斂させている。

ivの例もあった。「控える」、「避ける」という動詞が文法的な機能を持ち、前に文脈に合った意味の動詞を持ってきて、それと連動させて、「(あまり) ～しない」と否定表現にする例がある。「避ける」をやさしく言い換えた「兵」の例で見てみよう。

⑥自動車の運転中であれば急ブレーキを避け、ゆっくり減速しながら左側路肩に寄せる。
⇒くるまを うんてんして いる ときは、きゅうぶれーきは つかわないで ください。

言い換える前の「避ける」の前に「(ブレーキを) つかう」という動詞が来ると想定し、「やさしい日本語」では、その動詞を言語化させている。「(つかわ) ない」の否定の部分が「避ける」と対応している。

6.2 異品詞間の対応

《名詞対動詞》

ウォーキング⇒歩く	お稽古⇒～を勉強する
お持ち帰り⇒持って帰る	お召し上がり⇒食べる
片道⇒行く時だけ	キャンセル⇒やめる
救助⇒助ける	死亡⇒死ぬ
素泊まり⇒寝るだけ（ご飯なし）	溜め置き⇒用意する
賃貸⇒借りている（家）	徒歩⇒歩いて
食料の配給がある⇒食べ物をもたらすことができる	被害⇒壊れる
ひび割れ⇒割れている	避難⇒逃げる
無事⇒生きている	紛失⇒なくす
変更⇒かわる（電話が）	不通⇒（電話が）使えない
不通⇒動いていない、	

使うことができない、通ることができない
 不定休⇒いつ休むかわからない 未加入⇒まだ入っていない 運休⇒電車が動かない
 一日体験⇒一日だけ〇〇できる 雨天決行⇒雨でも～する 片側通行⇒道の片方だけを通ることができる
 三者面談⇒お父さん／お母さんと〇〇君と先生と3人で話す 授業参観⇒授業を見る 使用不能⇒使うことができない
 清掃活動⇒掃除する 駐車禁止⇒車を止めたらダメ 通行止め⇒通ることができない
 弁当持参⇒弁当を持ってくる 床上浸水⇒家の中に水がたくさん入る 行方不明⇒どこにいるかわからない
 〇〇鑑賞⇒〇〇を観る／聴く セルフサービス⇒自分でする レンタサイクル⇒自転車を借りる
 入荷待ち⇒今ありません。〇日ごろ来ます。 車禁止⇒車を止めたらダメ
 駐輪場⇒自転車を止める ところ負傷者⇒ケガをした人 弁当持参⇒弁当を持ってくる
 床上浸水⇒家の中に水がたくさん入る 優先席⇒おじいさん・おばあさん・病気の人が座るところ
 〇〇鑑賞⇒〇〇を観る／聴く レンタサイクル⇒自転車を借りる ロック⇒氷を入れる 水割り⇒氷と水を入れる
 ダイエット⇒体を細くするための運動 ツーロック⇒鍵を2つかける 入荷待ち⇒今ありません。〇日ごろ来ます。

《名詞対形容詞》

厚手の⇒厚い 以上⇒～よりおい お買い得⇒いつもより安い 旬⇒今がいちばん美味しい
 ファン⇒好き 不要⇒いらない 満席⇒(人が) いっぱい 未満⇒～よりすくない
 消費期限⇒〇〇まで食べても大丈夫 駐車禁止⇒車を止めたらダメ
 最寄の駅⇒いちばん近い ヘルシー⇒体にいい

ここでは、2字漢語サ変動詞の語幹などを名詞止めにし、それを動詞にひらいて言い換える例が多く見られた。日本語では、公的な文章には漢語名詞やその複合語を多用するなど、場面や状況を反映し、和語と中核的意味は同じもの

の、周辺の意味を変えて、表現を使い分けている。

「やさしい日本語」作成ルールには、「動詞を名詞化したものはわかりにくいので、できるだけ動詞文にしてください」との規定があり、その例として、転成名詞「揺れ」を「揺れる」と動詞で表すようにとの指摘があった。

上記の一覧にも2字漢語「救助」を動詞化して「助ける」の例のほか、和語の転成名詞「溜め置き」を漢語サ変動詞「用意する」、外来語「ウォーキング」を和語の「歩く」に言い換える例がある。

また、「片側通行」⇒「道の片方だけ通ることができる」や、「弁当持参」⇒「弁当を持ってくる」といった、4字熟語であるが、人々の間で慣用化されていない、辞書にも登録されていない、その場限りで作られた複合語の例も目を引く。

「兵」には次のような名詞から動詞への言い換えがあった。

引っ越し業者への依頼⇒ひっこしやにひっこしをたのむとき
 救急車の手配⇒きゅうぎゅうしゃをよびます
 住所変更の連絡をします⇒じゅうしょがかわることをしさせます。

《語(動詞)⇒句》

暖かくする⇒服をたくさん着る 悪化する⇒もっと悪くなる 慌てて逃げない⇒歩いていく、よく調べてから逃げる
 引火する⇒火がつく 迂回する⇒違う道を行く お会計する⇒お金を払う 確認する⇒よく見る 帰国する⇒じぶんのくににかえる 義務づけられている⇒かならずしないとけない
 汲む⇒水を入れる 警戒する⇒気をつける 骨折する⇒骨が折れる さけぶ⇒大きい声で言う 避ける⇒あまりしないようにする 殺到する⇒人が急にたくさん来ること
 沈む⇒道が壊れる 集中する⇒たくさんある たくさん～している 出店する⇒店を出す 消火する⇒火を消す 滞納する⇒まだ払っていない 近寄

る⇒近くに行く 注意する⇒気をつける 通学する⇒がっこうへいく 通勤する⇒かいしゃへいく 通報する⇒電話をする 停車する⇒車を停める 停電する⇒電気を使うことができない、電気が止まる 点検する⇒よく見る 同居する⇒一緒に住む 閉じ込められる⇒外に出られない、外に出られなくなる

半壊した⇒半分壊れた 控える⇒あまりしないようにする できるだけ～しない 火がつきやすい⇒燃えやすい 引っ越しする⇒いえがかわる ブレーカーを切る⇒ブレーカーを切る〈電気がつかないようにする〉 潜る⇒下へ入る 盛り上がる⇒道が壊れる 来店する⇒店に来る ～にハマる⇒～が好きで毎日する

以上の例は、言い換えられた語は、当該の語の正確な意味を伝えようとことばを増やして説明するため、言い換える前よりも語句が長く、また複雑な構造になっている。

例えば、「殺到する」は、「人が急にたくさん来ること」とある。動詞「来る」に2つの副詞「急に」「たくさん」の組み合わせることで対応させている。

《語（名詞）⇒句》

空き巣⇒留守の家に泥棒が入る 育児⇒こどもをそだてる お茶する⇒お茶やコーヒーを飲む お引き出し⇒お金を出す 給水⇒水をもらう 大雨⇒雨がたくさん降る 往復⇒行く時と帰る時 開店⇒店が始まる 下校⇒（学校から）家に帰る 出火⇒火が出る 消火⇒火を消す 食後⇒ご飯を食べた後 浸水⇒部屋に水が入る 洗車する⇒車を洗う 河川の増水⇒川の水が増える 速達⇒早く届く

断水⇒水道を使うことができない、水道が止まる みずがとまる 地割れ⇒道が割れている 通行止め⇒通ることができない ツーロック⇒鍵を2つかける 手作り⇒自分で作る 登校⇒学校に来る／行く 盗難⇒どろぼ

うにものをとられる 読書⇒本を読む 登山⇒山に登る ニケツ⇒二人で乗る 罰金⇒お金を払う バザー⇒家にある物を売る ひったくり⇒歩いている人の鞆を盗む 閉店⇒店が終わる ヘルシー⇒体に良い ポイ捨て⇒道に捨てる 前払い⇒先にお金を払う 水割り⇒氷と水を入れる 見積もり⇒いくらになるか調べる ロック⇒水を入れる 運休⇒電車が動かない 禁煙⇒タバコを吸ったらダメ

欠航⇒（船や飛行機が）動いていない、使うことができない 出火⇒火が出る 使用不能⇒使うことができない 盗難⇒どろぼうにものをとられる 不通⇒動いていない、使うことができない、通ることができない 不定休⇒いつ休むかわからない 行方不明⇒どこにいるかわからない 片側通行⇒道の片方だけを通ることができる 無料⇒おかねがない 有料⇒おかねがいる

上記の一覧では、言い換える前の名詞に共通するある特徴によって、二分することができる。「大雨」と「開店」を例に考えると、「開店」がその語基に続けてサ変動詞を持ってきて、そのまま「開店する」と動詞化できるのに対し、「大雨する」とは言えない。「大」は雨の量をさし、雨が「たくさん」…から予測を立て、「降る」という動詞をそこで初めて読み込むことができる。

つまり、上記の中には、名詞そのものに動作性を読み込める場合と、漢語の字音形態素がもつ意味を離れ、語句全体から飛躍した連想を伴って初めて、動作性を読み込める場合とに、分類できるのである。こうした言い換える前の語の字音形態素に動作性を有さない例は、「罰金」などが見られる。

《句⇒語》

気をつける⇒ちゅういする
横になってください⇒寝てください
（電車は）運転を見合わせる⇒（電車は）来ない、

(電車は) 運転を見合わせる⇒(電車は) 動かない
火の始末をする⇒火を消す
口にあう⇒おいしい、好き

一方で、句から語へとことばを減らす方向の言い換えもあった。「運転を見合わせる」の場合、「見合わせる」には「現段階は運転を停止し様子を見る(停止は一時的なものですぐに運転を再開する)」といった含みのある表現であり、直截な表現を避け、乗客への配慮を込めた言い回しとして、駅のアナウンスなどでよく耳にする。これを「やさしい日本語」では、現状をありのまま描写し、「来ない」・「動かない」と動詞のみで表すのである。「兵」でも「一を～する」形の句語に言い換える例として、「避難をします⇒にげてください」や「連絡をします⇒知らせます」があった。

さて、動詞と句の対応についても、形式上のちがいとして、次のような特徴がある。

i 漢語の語基を分解する

ii 動詞に対し副詞などの修飾成分+動詞を対応させる

iii 慣用句・連語に対し動詞を対応させる

まず、i である。漢語の字音形態素を分解し、それぞれを和語化して対応させ、文にして分析的に説明する例があった。「消火する⇒火を消す」、「半壊する⇒半分壊れる」、「帰国する⇒じぶんのくににかえる」といったものである。ここで、「兵」の例を見てみよう。

⑦自動車運転中は、安全な場所に停車してから通報してください。

⇒くるまを うんてんして いる ときは あんぜんな ばしょに くるまを とめて から でんわして ください。

⑧出火していれば、ただちに手近な消火器で消す。

⇒ひが でていたら すぐに しょうかきなどで けします。

次に ii の例である。基本的な動詞にその動作の意味を豊かにする副詞などの修飾成分を付す例である。「殺到する⇒人が急にたくさん来ること」や「集中する⇒たくさんある」、「点検する／確認する⇒よく見る」、「近寄る⇒近くに行く」があった。

「兵」では「点検する」を言い換える例があった。「弘前」では副詞とともに「よく見る」と言い換えていたのに対し、「兵庫」では複合動詞「みてまわる」としていた。

また、「兵」では「近寄る⇒近くに行く」や「駆けつける」を「すぐに行く」と、副詞と動詞を組み合わせて表す例もあった。

⑨折れた電柱や垂れ下がった電線には近寄らない。

⇒おれた でんちゅうや たれさがった でんせんの ちかくに いかないで ください。

⑩連絡のあった日の当番になっている弁護士が通訳をつれて面会に駆けつけます。

⇒れんらくを うけると、べんごしかい(弁護士会)から その ひの とうばん(当番)の べんごし(弁護士)が すぐに いきます。
べんごし(弁護士)は つうやくを つれて いきます。

最後に、iii の「一を～する」の形をとる連語や慣用句に対して動詞を対応させる例である。

ここでは、慣用的な表現「気をつける」の言い換えを取り上げる。「気をつける」は、「兵」では、「注意する⇒気をつける」の言い換えがリストにある一方、「とん」では、「気をつける⇒ちゅういする」の言い換えが示されており、資料によって「やさしい日本語」か否かの判断が異なっている。

これを日本語能力試験出題基準で見ると、「気をつける」が2級レベル、「注意する」が3級

レベル、教育基本語彙の語彙配当では、「気をつける」が小学校高学年レベル、「注意する」が小学校低学年レベルとなっており、いずれも「注意する」の方が難易度が低いことが証明されている。

一方、前に見た小学校から高校の教科書で初出の語を調べると、「気をつける」は、4年生の理科の教科書で見られ、「注意する」は、5年生以上対象の家庭科の教科書（いずれも東京書籍）に登場している。

「兵」の文章でも次のような文があった。

⑩他の家庭や公衆浴場では、風呂の入り方に注意しましょう。

⇒ほかの かていの ふろ、せんとうなどの こうしゅうよくじょうでは、ふろの つかいかたに きを つけましょう。

このように言い換えによって対象とする外国人にやさしい語として受け入れてもらえるのか、判断の難しい例もある。

以上、「やさしい日本語」の例について、動詞と動詞が同品詞で対応する言い換えと、名詞と動詞といった異なる品詞で対応する言い換え、動詞と句が対応する言い換え特徴を見た。

7. まとめ

本稿では、在住外国人に向けて、やさしく日本語を言い換える例について、語同士、語と句レベルといった主に形式に沿って、その特徴を辿っていった。

その結果、まず、語と語の言い換えでは、同じ品詞間の言い換えだけではなく、名詞を動詞にひらくなど、異なる品詞間の言い換えも見られた。さらに「慌てない⇒落ち着く」のように一方の動詞の否定形をそれと意味が相反する別の動詞で対応させる例や「控える」、「避ける」を機能動詞化させ、前に来る動詞を否定するなど、様々な方策で「やさしい日本語」への言い換えがなされていることがわかった。

「やさしい」とは、あくまで「やさしい日本語」製作者が考えるやさしさであり、それを実際に受け取る在住外国人の方々が実際に「やさしい」と感じるかどうかは。母語が漢字圏か非漢字圏かどうかに関わらず、定かではない。

今回、ことばの難易度に言及するあたって、その基準にした主に児童生徒対象の「語彙配当」、そして日本語学習者対象の「語彙表」のレベルは、両者ともに大人の側が人為的に決めたやさしさであり、むずかしさである。「やさしい日本語」では、そうした想定される「やさしい」とされる範囲の中で、一般と同じ事実、同じ情報を伝えようとしても、その「やさしさ」の範囲内では、伝えきれない部分も現れるだろう。

例えば、漢語を用いることで、詳細に事態を表し分けることができる。そうした漢語が有する、イメージの膨らむ、広がりのある部分を切り捨て、在住外国人向けに和語で単純化させて伝える場合、受け手側の外国人の間で受け取る情報量に差が生じることもある。

災害発生の緊急時はもちろん、普段の生活の中で、あらゆる母国語や背景をもった定住外国人の方々が、多文化共生の名のもとに、快適な生活が守られるよう、「やさしい日本語」のさらなる整備と活用が今後、期待される。

参考文献

- 林四郎 (1982) 「臨時一語の構造」『国語学』
131 国語学会
- 庵功雄 (2009) 「地域日本語教育と日本語教育
文法「やさしい日本語」という観点から」『人
文・自然研究』3 一橋大学大学教育研究開発
センター
- 今西利之 (2007) 「フォリナー・ライティング
の具体例とその分析」『熊本大学留学生セン
ター紀要』10 熊本大学留学生センター
- 庵功雄・イ ヨンスク・森篤嗣 編 (2013) 『「や
さしい日本語」は何をを目指すか』ココ出版
- 今西利之 (2008) 「いわゆる「生活の手引き」
の語彙についての覚え書き フォリナー・ラ
イティング研究の視点から」12 熊本大学
留学生センター
- 国際交流基金 (2002) 『日本語能力試験出題基
準 改訂版』凡人社
- 国立国語研究所 (2009) 『教育基本語彙の基本
的研究 増補改訂版』明治書院
- 松田陽子・前田理佳子・佐藤和之 (2000) 「災
害時の外国人に対する情報提供のための日本
語表現とその有効性に関する試論」『日本語
科学』7 国書刊行会
- 佐藤和之 (2009) 「生活者としての外国人へ災
害情報を伝えるとき—多言語か「やさしい日
本語」か—」『日本語学』28 (6) 明治書院
- 湯浅千映子 (2007) 「小学生新聞に見る『言い
換え』」『学習院大学国語国文学会誌』50
学習院大学国語国文学会
- 湯浅千映子 (2009) 「小学生新聞の言い換え操
作—動詞を対象に—」『日語日文学研究』70
韓国日語日文学会
- 湯浅千映子 (2010) 「現代日本語の文章における
読み手の年齢差に応じた表現の類型」未公刊
博士論文 学習院大学人文科学研究科